

大課題名：新 新たな肉質のモモ「甲斐トウ果17」の特性を活かした省力栽培技術の確立（R3～5）・成長戦略研究候補
 小課題名：新 1 品種特性を活かした省力収穫技術の開発（R3～5）
 小課題名：新 2 これまでに開発した省力化・高付加価値化技術の適応性検証（R3～5）
 小課題名：新 3 省力収穫技術に適した新たな仕立て方法の開発（幼木期）（R4～5）

背景とねらい

○モモ新品種「甲斐トウ果17」
 平成31年4月に品種登録

新しい肉質で食味良好

日持ち性・輸送性が良い

押し傷がつきにくい

軟化が進みにくく、
 温暖化や輸出への対応も期待



新しいモモらしいけど、これまでの作り方でいいのかな



収穫を楽にしたいなあ

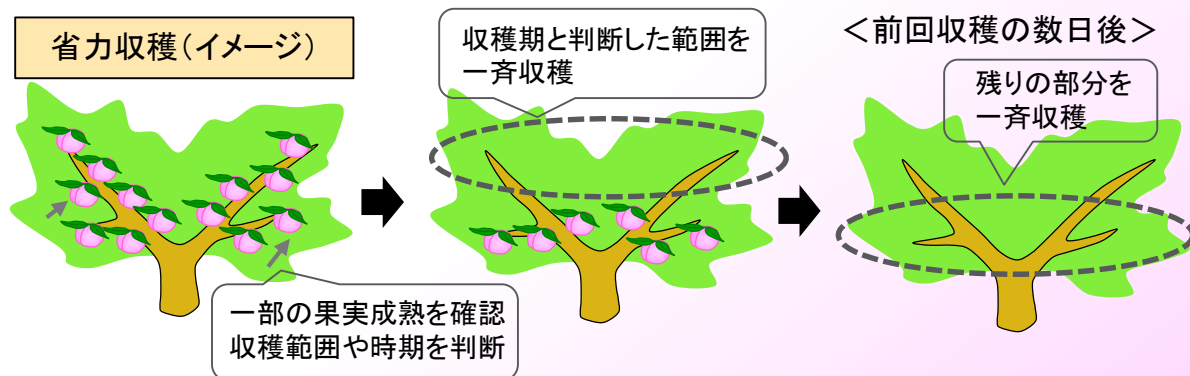


「甲斐トウ果17」の特性を活かした
 省力栽培技術の確立

試験内容

1. 品種特性を活かした省力収穫技術の開発

- ・着果部位や袋かけの有無による果実成熟特性の解明
- ・一斉収穫方法の開発：収穫範囲、収穫時期の検討
- ・収穫時期による樹勢への影響調査



2. これまでに開発した省力化・高付加価値化技術の適応性検証

- ・早期着果調節
- ・高付加価値化技術（文字入れ、大玉化）

3. 省力収穫技術に適した新たな仕立て方法の開発（幼木期）

- ・仕立て方法（改良斜立、一文字、改良Y字など）の検討
- ・台木（ひだ国府紅しだれ、つくば5号など）の検討

※新たな仕立て方法の開発については、R6以降も継続して検討予定

期待される効果

省力栽培技術の確立 → 作業時間の大幅な削減 規模拡大 所得向上
 「甲斐トウ果17」生産量拡大 ブランド力向上